

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

2015年
No. 56
2015年11月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会
THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 本橋道昭
© JASE. 2015 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

| | |
|---------------------------|---------------------|
| 「関西性教育研修セミナー2015夏」報告 …… 1 | もっと知りたい男子の性⑩ …… 12 |
| 「東京性教育研修セミナー2015夏」報告 …… 7 | 今月のブックガイド …… 14 |
| 「第22回WAS国際会議」見聞記 …… 10 | JASEインフォメーション …… 15 |
| 性教育の歴史を尋ねる⑳ …… 11 | |

◎ 「関西性教育研修セミナー 2015 夏」 報告

Nature loves diversity, but our society may not 人間の性をめぐる諸言説の本当と嘘

2015年8月9日(日曜日)午後1時より、大阪府立大学「I-site なんば」において、「人間の性をめぐる諸言説の本当と嘘」をテーマに関西性教育研修セミナーが開催された。前半でミルトン・ダイヤモンド教授(ハワイ大学)とフィリップ・トロモビッチ教授(同志社大学)が講演した後、後半では東優子教授(大阪府立大学)を交えた鼎談、そして会場との質疑応答がおこなわれた。

主催：関西性教育研修セミナー実行委員会

性を扱う際の心得

開会にあたって、企画者の東優子教授(大阪府立大学)から今回のセミナーの趣旨説明がなされた。

* *

人気歌手レディー・ガガのヒット曲でもお馴染みの“Born this way”(生まれつきこうなんだ)は、とくに同性愛者やトランスジェンダーなど、性的マイノリティのありようについて使用されるフレーズです。とくに同性愛や異性愛といったありようを「性的指向」と言います。

性的関心が同性や異性などに方向づけされているという意味である orientation の訳語なので「指向」と



趣旨説明をする東優子教授

いう漢字を当てはめるのが正解なわけですが、「志向」や「嗜好」じゃないという説明においては、きまって「同性愛は先天的に規定されている」ということも強調されるのではないのでしょうか。

しかし実は、性的指向が先天的に規定されているかどうかについては結論が出ていません。そうだろうと思われるエビデンスは多数ありますし、いったん方向づけされたものは本人の意思をもってしても動かしがたいものであること、またそれを長期の心理・精神療法などで転向させようとするのは非人道的・非倫理的であるという点においても、専門家の間では合意が形成されています。でも、「方向づけ」に影響するのが何であるのかについては、すべて仮説なのです。

それでも、同性愛者やトランスジェンダーなどのありようが「志向」や「嗜好」じゃないんだ、“Born this way” なんだということが強調される背景には、社会的規範から逸脱する者たちが「神を冒瀆する者」あるいは「犯罪者」や「性的異常者」「倒錯者」といった汚名を着せられてきた歴史があり、規範に沿うよう転向させようとする社会的圧力の存在があります。

性科学というのは、人間の性にまつわる様々な謎を科学的に解明しようとする学問領域ですが、性科学を取り巻く社会的環境はこれを非常に困難なものにしています。社会が好ましいと思わないもの、とくに子どもとセクシュアリティについては調査研究が許される状況にはありません。日本性教育協会が実施している「青少年の性行動全国調査」(2011年に第7回の調査が行われ『「若者の性」白書』として刊行されている)にしても、ランダム・サンプリング(無作為抽出法)による実施が困難な状況が生まれています。

本日の講師であるトロモビッチ博士にしても、彼と共同研究者が行った若年者のセクシュアリティに関する科学的な研究は、その結果示唆された内容が社会的に望ましくないものであったがゆえに問題視され、米国の国会で取り上げられるほどの騒動にも発展しました。その他にも、特定の宗教や文化において長年実践され、あるいは医療関係者の利害関係が大きく絡むような「男子割礼(包皮切除)」などについても、その負の影響を明らかにしようとする研究に対する社会的圧力といったものが存在します。

この後お話いただくダイヤモンド博士は、私の恩師です。世界中に多くの教え子をもつ彼の教えのなかで、私がとくに重要だと思ったのは次の「性を扱う際の心得」です。

- 性に関する言説で、ある種の感情や態度を伴わないものは存在せず、個人や社会の都合で「事実」は変

色してしまうことがある。

- 「一般論」や「傾向」について語ったり、教えたりすることは必要であるが、ひとりひとりの人間は「平均」と一致することもあれば、劇的に異なることもある。(その個人の問題を個別化することが重要である。)
- 「何がどうである」、「何がどうあるかもしれない」、「何がどうあるべき」というのは、常に、明確に、区別して語られなければならない。しかし、「何がどうである」が常に明確に認識されているわけではなく、「何がどうあるべき」をめぐる意見は常に分かれ、流動的である。

当たり前のことを言っているようで、これをちゃんと実践しようとするのはなかなか難しいことです。「政治家」はもとより、実は「教育者」「科学者」「研究者」を自称している人たちでさえ、実は怪しい言説を流布し続けている人たちは多いものです。これができるか、できないかではなく、「心得」を常に意識しつつ、言論活動をしていくことが大切なのです。今日のセミナーの内容についても、リテラシー(読み解く力)を存分に発揮しつつ、クリティークしていただきたいと思えます。

* *



これに続いて登壇したミルトン・ダイヤモンド教授は、GIRES 研究賞(英国:1999)、マグヌス・ヒルシュフェルト賞(ドイツ:2000)、アジア・オセアニア性科学連合賞(2005)、LFTS 国際 Diversity 賞(ノルウェー:2005)、インターセックス協会賞(ドイツ:2008)、ハワイ大学評議員奨励賞(米国:2009)、GIRES 研究賞(英国:2010)、キンゼイ賞(米国:2011)など、世界各国でその功績が讃えられている世界的な性科学者である。

今回のセミナー直前にもシンガポールで開催された WAS(世界性の健康学会)国際会議で、その長年にわたる性科学への貢献に対して「金賞」が贈られたばかりである。その受賞記念講演のダイジェスト版をセミナーで再現してもらった。

性の定義をめぐって

子どもが生まれたときに、最初に私たちは、この子は男の子なんだろうか、女の子なんだろうかということ疑問に思ったりします。そして、その違いは何なんだろうか、どういうふうな影響で子どもは育っていくだろうか、というようなことを話します。人格や気性、それから人生の選択などなど、どういうふうに発達していくだろう、ということが話題になります。

男というのは、女というのはどう定義されるのかということを考えるわけですが、例えば、生物学的な男性の特徴として、染色体はXYで、精巣があって、ペニスがあって、前立腺があるとか、生物学的に女性であるというのは、染色体がXXで、卵巣があって、膣があって、というように、生物学的な特徴というものについては、あまり異論は起こりません。

男と女の定義がありますけれども、それだけではなく、生物学的な特徴として、インターセックスと呼ばれる特徴を持っている人たちが存在しています。

それぞれの定義（スライド1）があります。例えば、トランスセクシュアルについては、古いところでは、別名「ハリーベンジャミン症候群」という言葉がありました。ハリーベンジャミン（Harry Benjamin）は、「トランスセクシュアルの父」とも呼ばれた内分泌科医の名前です。

そのほかにも、インターセクシュアリティ、インターセックスと呼ばれ、生物学上の女性的、男性的特徴の両方を有していたり、一部分を有していたりする人々がいます。基本的に2つのタイプがあり、出生時の性器の特徴で明らかになるタイプと、それから特別

な検査をしないとわからないタイプというふうに分けられます。

私たちの出生時の性別というのは、股間にペニスがついているかどうかということで決められるわけです。ついていれば男の子といわれます。生まれたときの性器の特徴、両性具有で生まれるような、見た目で見ても男と女の特徴の両方を持っているというのを想像しがちですが、本人さえわからないぐらい、知らないまま死んでいくぐらい明らかにならないもの、隠れた状態にあるというのがほとんどです。

生まれたときの性器がどちらかわからないというのは、2000人に1人といわれますけれども、ほとんどが隠れたわからない状態のインターセックスなわけですから、それは人口の1%、100人に1人はこういう状態で生まれてくるというのが私の推定値です。本人さえも知らずに育ってきた人たちがどの機会にわかるかということ、子をなしたいと思ったときに、不妊症で悩む、それで検査に行く、そこで判明するというようなことがあります。

インターセックスの状態とは

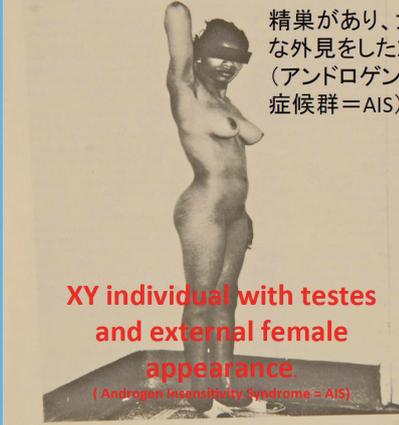
この方（スライド2）は、私が研究の初期に出会った方です。She（彼女）は染色体の型がXYで、精巣もあります。でも、外見を見ていただいたらわかりますように、非常に女性的な外見をしています。彼女は、男性ホルモンに体が反応しないという状態のアンドロゲン不応症候群・完全型と呼ばれるインターセックスの状態にあります。精巣からは通常の男性ホルモンが出ていますが、身体がそれに反応しないため、外性器を始めとする身体的特徴は非常に女性的なのです。

定義

- **セックス (生物学的)**
 - 男性
 - XY, 精巣, ペニス, 前立腺, 陰囊, etc.
 - 女性
 - XX, 卵巣, 膣, 子宮, 乳房, 卵管, etc.
- **インターセックス (生物学的)**
 - 生物学的な男性・女性としての特徴の組み合わせ
 - 半陰陽, 仮性半陰陽 ※現在は使用されていない用語
 - CAH, cAIS, pAIS, 5-alpha, 17-beta, クラインフェルター症候群, ターナー症候群
 - DSD [性的発達における様々な違い] ※性分化疾患
- **ジェンダー (社会的)**
 - 少年, 少女, 男性, 女性

スライド1

L
G
B
T
I
Q
A



XY individual with testes
and external female
appearance
(Androgen Insensitivity Syndrome = AIS)

精巣があり、女性的な外見をしたXYの人（アンドロゲン不応症候群=AIS）

スライド2



スライド 3

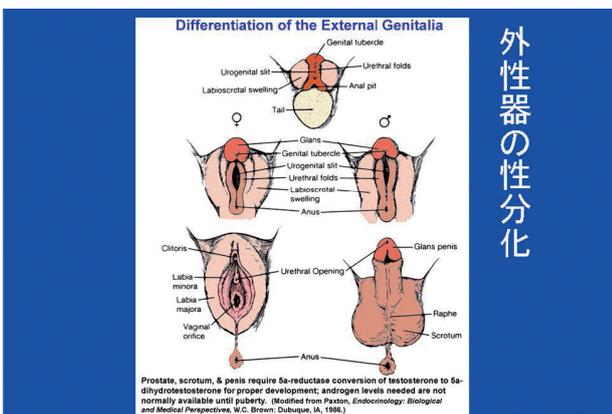
スライド 4

スライド3は、インターセックスの状態の中でもよく見られるといわれる CAH (先天性副腎過形成症) と呼ばれる状態の人の外性器です。卵巣があって、膣があり、染色体の型は XX ですが、非常に男性的な外見です。写真 (スライド4) を見ていただいたらわかりますように、生まれたときの生殖器、外性器の形は男性化した状態で生まれます。テストステロンの作用によって、クリトリスが男性化、肥大化した人です。男性ホルモンが過剰に出ることによって、男性化が起る症例です。

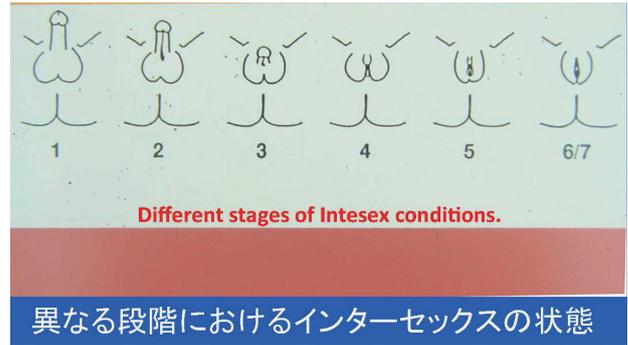
外性器の性分化

胎生期のときの性器の状態というのは非常に中性的な状態で、そこから男性的特徴、女性的特徴に分化していく様がこの図 (スライド5) に示されています。

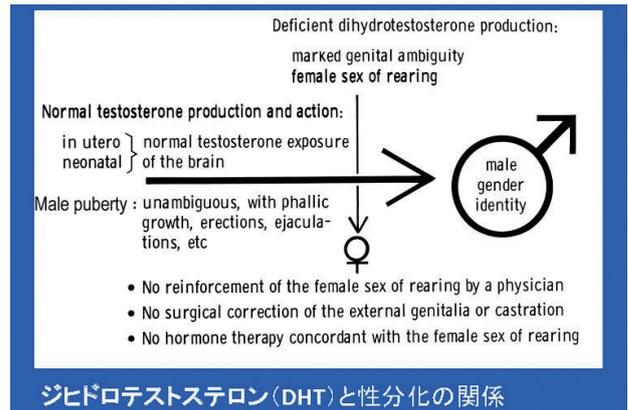
スライド6は、1番が典型的な男児、6/7番が典型的な女児の外性器ですが、それ以外にも様々な形態がありうるということを示したものです。染色体が XY で、精巣から正常値の男性ホルモンが出ていても、ホルモン受容体が反応しないから身体的特徴が女性化して生まれてくる場合もあるのです。ある種の酵素が足りないがゆえに、男性化しないで女性化して生まれてきたという状態の場合でも、思春期になって、男性化



スライド 5

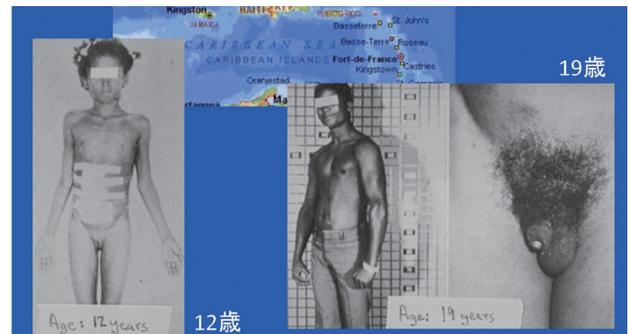


スライド 6



ジヒドロテストステロン (DHT) と性分化の関係

スライド 7



スライド 8

が促されるというようなことがあります。

この図 (スライド7) が示しているのは、出生時の性器の外見からすると女性化している場合でも、胎生期に脳はすでに男性ホルモンの働きによる影響を受けているために、ジェンダー・アイデンティティが男性になるということがあるということが示されています。また、だからこそ、外性器の見た目に基づいて手術やホルモン療法など、不可逆的な介入によって女性化させてはいけません。あくまでも本人がどうしたいかを自己決定できるようになるまで待つべきなのです。

スライド8は、思春期で男性化が起こった事例です。同じ人の12歳のときの写真と、思春期を経て二次性徴の発来によって男性化した後の性器の見た目がまったく異なる様子がわかると思います。こうしたインタ

ーセックスの事例は、ドミニカ共和国で高い頻度で見られるということが知られているのですが、その理由はインターマリッジ=近親婚が繰り返されたことによって、遺伝的に受け継がれてきたのだらうと言われて

アイデンティティ

次にお話するジェンダー・アイデンティティというのは、自分を男と思っているのか、女と思っているのか、boyなのかgirlなのか、manなのかwomanなのかという感覚のことです。

性別欄に記入するM (male)あるいはF (female)というのは、生物学的な次元について言及する時に使用される言葉です。人間だけでなく、動物のオス・メスについてもmale、femaleを使用します。一方のboyとかgirl、manとかwomanというのは社会的な存在に言及する言葉です。だから、日本語に訳してしまうと全部一緒になってしましますが、英語表現では「maleとして生まれた=生物学的には男性として生まれた人が、girlとして、あるいはwomanとして生活している」といった、区別した言い方が可能であり、またそうした表現をすることが大事です。

一般にトランスセクシュアルとインターセックスは異なる状態として区別されますが、トランスセクシュアルもまたインターセックスの一種だと考えています。トランスセクシュアルの人たちにとってインターセックスの状態にあるのは、性器などの身体的特徴ではなく、脳です。

この方(スライド9)を見てください。金髪なのでちょっと見えづらいかもしれませんが、立派にひげを



スライド9



スライド10



スライド11

蓄えておられますね。ひげが見えなければ、女性的な印象を受ける顔立ちだと言えるかもしれません。この方はまさにそういう女性的なところと男性的なところ、このひげを蓄えるということに誇りを持っておられるのです。

この方(スライド10)は、タイの有名なムエタイ選手でした。写真に示されているように、段階的に、手術を受けるなどして性別移行をした人です。

この方(スライド11)は、つい最近、大きな話題になった有名人で、米国の十種競技の元世界記録保持者で、モントリオールオリンピックの金メダリストです。性別移行するにあたり、名前もブルース・ジェンナーからケイトリン・ジェンナーに変えました。

トランスセクシュアルであるということが、生物学的要因にどれくらい規定されているのかを調べるには、双子の研究が最適だと言われています。双子に限った性別移行の一致度というものを調べた場合に、一番一致率が高いのは、男・男の組み合わせの一卵性の双子の場合という調査結果があります。双子のひとりが性別移行した場合に、もうひとりも性別移行する二人の一致率は、男児の一卵性で最も高く3分の1ほどになります。これは遺伝的な要因、影響が非常に強い

Concordance of Transitioning for Male and Female T Twins ふたごの性別移行の一致度

Table 5: Distribution of responses found in combined bibliog. & survey searches.

| Sex | Zygoty | Concordance | | Totals | | |
|--------|--------|-------------|----------|---------|--------|-------|
| | | Yes 一致 | No 不一致 | N total | Con | Yes % |
| Male | MZ 一卵性 | 7+6 13 | 10+16 26 | 39 | 13/39 | 33.3% |
| 男性 | DZ 二卵性 | 1+0 1 | 9+11 20 | 21 | 1/21 | 4.8% |
| Female | MZ 一卵性 | 5+3 8 | 9+18 27 | 35 | 8/35 | 22.9% |
| 女性 | DZ 二卵性 | 0+0 0 | 2+15 17 | 17 | 0/17 | 0% |
| Totals | | 13+9 22 | 30+60 90 | 112 | 22/112 | 19.6% |

ふたご調査(112組)において、全体の一致度は19.6%だが、一卵性の場合は一一致度が高く、とくに男子のふたごで最も高い。

スライド 12

ということを示唆するものです(スライド 12)。

一卵性双生児でありながら、別々の環境で育ち、16歳になるまで一度も会わなかった事例があります。この二人は別々の環境に育ちながら、両方ともが性別移行していました。

私たちというのは、性について考えるとき、性別について語るときに、股間に何がついているか(外性器が何か)ということに注目しがちです。けれども、私たちにとって一番重要な性器というのは、外性器ではなく、脳なのだというのが、私が言いたかったことです。どうもありがとうございました。

※ ※



休憩をはさんで、同志社大学のフィリップ・トロモビッチ教授の講演「幼少期の性的虐待経験が成人期の心理的・性的健康に及ぼす影響：全国調査と大学調査の結果を考察する」が行われた。氏によれば、子どもを対象とした「性的虐待 (Sexual Abuse)」に関する調査研究は国レベルでほとんど行われておらず、その背景には、子どもが性的行為に従事することへの否定的なまなざしがあるという。

一般には、幼少期の性的虐待経験は長期的な負の影響を与えると考えられている。しかし今回、被害者の被る長期的な心理的・性的健康について、複数の調査



研究を調べたところでは「長期的な負の影響は小さい」ということが示唆されたという。もっとも、関西性教育研修セミナーの共同代表である野坂祐子氏(大阪大学)によれば、この研究(=講演に登場する)「性的虐待 (Sexual Abuse)」の定義は、一般に日本で使用される「親からの性的虐待」といった狭義よりも広い意味で捉えられていることから、そのことも今回の研究結果に影響しているのではないかという指摘がなされた。

また、「鼎談 ダイヤモンド×トロモビッチ×東」のコーナーでは、性に関する研究の直面している困難についても話し合われた。たとえば、ダイヤモンド教授の有名な研究のひとつには、児童ポルノを禁止していない国では性犯罪が低く抑えられていることを示唆する警察庁発表データなどが存在しているが、こうした結論を導く調査研究は社会的な反発が強く、科学的に研究しようとする自体が困難な状況に追い込まれている。児童ポルノをテーマとする研究者が、研究のための資料を入手することさえ米国の連邦法違反が問われる場合もあるという。

同性愛やトランスジェンダー現象が神への冒瀆である、性犯罪である、あるいは精神的な病理であるとしたり、女性には性的欲望がないと考えられたり、マスターベーションを治療の対象としたりと、性をめぐる諸言説の歴史には様々な学ぶべき教訓がある。現代においてもタブー視されたテーマや、政治的に科学的研究の遂行が困難なものがある。こうした社会的環境にあることを認識しつつ、困難に立ち向かっていくことが求められている。こうした議論の後、会場との質疑応答でセミナーは終了した。

※ミルトン・ダイヤモンド教授の講演は、大阪府立大学の東優子教授がスライドの日本語訳と通訳を担当した。

●「東京性教育研修セミナー 2015 夏」報告●

第6回世界性の健康デー 東京大会

より公平な社会の実現と性の健康

世界性の健康デー（World Sexual Health Day；WSHD）とは、世界性の健康学会が提唱した記念日。2010年から世界各国で関連イベントが開催されている。2015年のテーマは「より公平な社会の実現と性の健康（Sexual Health for a Fairer Society）」。

東京では、9月6日（日）新宿区四谷の持田製薬本社ビルのルークホールで開催された。

主催：世界性の健康デー 東京大会実行委員会

◇シンポジウム◇

「性の健康から考える日本の貧困」

午前10時30分より、「性の健康から考える日本の貧困」をテーマにシンポジウムが開かれた。「貧困」と「性」は結びつくことが意外に多いのだが、一緒に語られることは少ない。生活困窮者支援NPO法人代表理事、産婦人科医、カウンセリングオフィスでユング派の精神分析および統合・折衷心理療法の実践と指導に携わる臨床心理士の3人のシンポジストが、それぞれの立場から、「日本の貧困」という切り口から「性の健康」について語り合った。

モデレーターは、恋愛、性、結婚、不倫、離婚など女性の生き方や男女関係について、執筆活動を行っているルポライターの亀山早苗さん。

貧困の現状

3名のシンポジストが10分ほど、それぞれの立場から報告を行った。

首都圏で生活困窮者支援を行うソーシャルワーカーの藤田孝典さんは、生活保護や生活困窮者の在り方に関する活動を通じて、主に10代から20代の生活困窮者の増加、その実態と生活の状況、それともなう若年妊娠などの問題について報告した。

続いて、北東北70キロ圏内で唯一産婦人科のある岩手県立二戸病院で産婦人科科長を務める秋元義弘さ



シンポジストの皆さん

んが、岩手県内の高校生の性行動・性意識の調査の結果を紹介するとともに、医療過疎地域における貧困からくる望まない妊娠や性的虐待の事例とその背景を語った。

大妻女子大学教授で臨床心理士である福島哲夫さんは、貧困には社会的な貧困、心理的な貧困、性の過剰ゆえの貧困などがあるという。福島さんは、臨床心理士の立場から、心理的貧困が性的貧困と社会的貧困をもたらした具体的事例などをあげ、都会における「心理的貧困」と「性の健康」について、その原因と解決の道筋について語った。

「貧困」の連鎖からの脱却のために

日本だけの特徴ではないが、「貧困」は、連鎖する。その連鎖を断ち切る道を探る必要性をそれぞれ強調された。その背景に、自分の居場所の不足、自分の存在の承認、人間関係の脆弱さ、などが挙げられた。

その対策として、大人が「声をかけて耳を傾ける」ことが大切であるという。また、中学校卒業までには「性に関する教育」が絶対に必要で、その後の性の健康にとって重要であると全員が強調した。

◇トークセッション◇

「未来の性教育」

Next Generation Leader's Summit 2015

昼食休憩をはさんで、午後1時より4人のゲストを迎えてトークセッションが行われた。

「性教育元年」と呼ばれた1992年からの約20年を振り返り、これからの性教育についてユース団体の代表が語り合った。

学校では教えてもらえなかった性の情報を発信し、同世代と共に学び直すことをモットーに活動する学生団体「思春期保健委員会」代表の内藤ゆりかさんは、性教育を広い意味で捉え、性感染症、避妊、月経などのほか、デートDVやLGBTなどをテーマに、思春期世代の人たちが、自分らしさを認めて生きていけるようサポートすることを目指しているという。

2014年10月10日、「とつきとおか」の日を狙ってNPO法人化した「ばばとままになるまえに」代表の西出博美さんは、これから結婚・妊娠・出産・子育てをする可能性のある若者が、その当事者になる前の「いつか」のための「今」できることがある、という思いで、ゲストスピーカーを招いて講座などの活動をしているという。

国際学生NGOの中の「性と生殖・AIDSに関する委員会」SCORA代表の齋藤恵理子さんは、性教育の出前授業をしたり、セクシャルマイノリティの社会的認知度と理解の向上を医療系学生の立場から進めている。

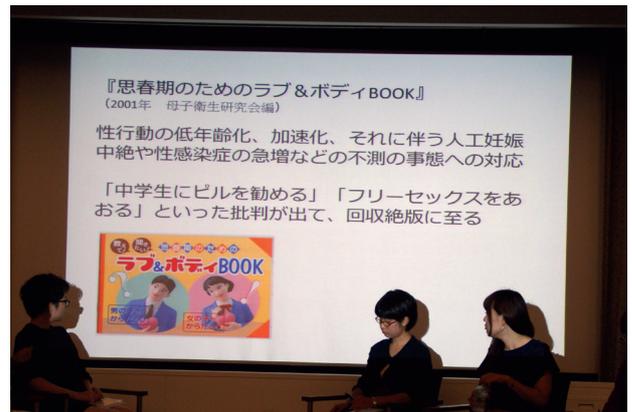
メディコロール代表の山瀬さんは、セクシャルマイノリティに関する医療情報の提供や勉強会・イベントの開催をメインに活動し、セクシャルマイノリティであることが、医療を受けることへの障壁とならない社会をつくることを目標に活動をつづけているという。

モデレーターは、毎年、約50校の中学校や高等学校への性教育講演を行っている産婦人科医の種部恭子さん。

主催者が準備した20年の性教育の歴史を、クイズ



トークセッションの様子



回収絶版となった『思春期のためのラブ&ボディBOOK』

方式で振り返ることから、トークセッションは始まった。その中で、会場も含め、話題の中心になったのが、性教育バッシングの歴史であった。

種部さんは、2つの事件を紹介した。1つは『思春期のためのラブ&ボディBOOK』の絶版回収、とその後の性教育バッシングの経緯について、もう一つは、東京都立七生養護学校の事件について。

七生養護学校の事件は、日野市にある小・中・高等部を持つ知的障がい児の学校での性教育の授業「こころからだの学習」の内容に、都教委、都議などが介入し、懲戒処分がくだされた事件であることを紹介し、その具体的な授業の内容とともに、処分の不当性を理由に、2005年に提訴された裁判が原告の勝訴で確定したことなどを話された。これらの性教育バッシングを知らない参加者が多かったのが印象的であった。

その後、ゲストが受けてきた性教育を振り返りながら、これからの性教育については、活発な意見が出された。登壇した5人を含めて、会場の多くの参加者から、「性教育をする側が自信を持って、脅しの性教育でなく、健康教育として、当たり前のこととして性のことを普通に教えてほしい」との意見が出された。

特別講演

北欧フィンランドの性と健康教育



午後2時40分より、「世界性の健康デー」の提唱団体であるWAS（世界性の健康学会）の性の権利委員会共同委員長であるトミ・パーラネン（Tommi Paalanen）博士の「北欧フィンランドの性と健康教育」をテーマとした特別講演が行われた。

博士は、フィンランドの哲学者で、性科学者の研修、カウンセリングやセラピー、セクシュアリティや多様性について、肯定的かつオープンで偏見のない社会の実現に向けた政治活動に取り組む Sexpo 財団の代表を務めている。

フィンランドの若者の性のトレンドについて整理すると、次のような特徴がみられるという。

- サウナ文化と性のオープン性が歴史的に大きな関連性をもっている。
 - 個人主義が重視される。
 - キリスト教徒が大半であるが、性に関する宗教的影響は薄れている。
 - 同性婚は認められる方向にあるが、まだ反対する人たちも多くある。
 - HIV 感染率は、非常に低い。
 - 小学校段階から性教育が充実していることもあり、人工妊娠中絶は極めて少ない。
 - ポルノを利用する男性が約80%である。女性も多い。
 - 婚姻制度にとらわれない恋愛関係を大切にしている。
 - 恋愛において相手への忠誠心が求められる度合いは、欧州一である。
 - 恋愛関係の中で、アイデンティティが重視される。一方で複数の恋愛関係を続けている人たちが30%近く存在する。
- 紙幅の都合で箇条書きで紹介した。



ゆるトークセッション

日本の住宅事情と性の健康

午後4時10分より、最後のプログラムとして「ゆるトークセッション」と名付けられたトークセッション「日本の住宅事情と性の健康」が行われた。

登壇されたのは、以下の4名。

調布市内の創業109年の林建設株式会社に42年勤務している専務取締役の西川一幸さん。東邦大学医療センター大森病院泌尿科リプロダクションセンターで女性性機能障害センターのインターネットでの調査・相談業務を担当している東邦大学医学部医学科客員講師の西郷理恵子さん。男児2人の母親で、学生時代に国内のNGOグループで性感染症予防活動に参加経験のある行政保健師の佐藤要子さん。4月に結婚したことで生活が一変し、これから子どもが生まれ成長したらどうしていけばよいか、不安だというプログラマーの松本憲彦さん。

モデレーターは、現在男性向け一般週刊誌の制作に携わっている編集者・ライターの赤谷まりえさん。

紙の文化、木の文化という日本の住宅の特徴、住宅事情のなか、性の健康を守るための方策を話し合った。防音対策など、住宅の専門家である西川さんを中心に、それぞれ自分の置かれている住宅状況から、切実な質問と意見が活発に出された。

3階の企画展

メインホールである2階のプログラムとは別に、3階では、「学校現場におけるLGBTサポート研修」「レインボーパレード動画放映」「おしえてうっちー先生！おちんちんのこと」「直撃！AV界のレジェンド太賀麻郎を囲む会」の4つのプログラムと2つのブースの企画展示があった。



「第22回 WAS 国際会議」 見聞記

課題のみられた大会運営

目白大学大学院心理学研究科非常勤講師

内山 絢子

2015年7月25日から28日まで、シンガポールサンテック国際会議場で「第22回 WAS（世界性の健康学会）国際会議」が開催されました。

シンガポールは、世界有数のリゾート地、観光地でもあり、学会以外でも楽しいイベントやみどころがたくさんありました。マーライオン、ナイトサファリ、世界遺産にもなっている国立植物園、サマセットモームで有名なラッフルズホテルやオリエンタルホテル、3つのビルが天井でつながっているマリーナベイサンズホテルなどなど。

国立植物園には、熱帯雨林がそのまま残されているところもあり、広大な面積を占めています。なんといっても人気なのは、ラン園です。さまざまなランの花が咲いていました。世界のロイヤルファミリーのプリンセスなどの名前を冠したランがあることでした。訪問時に部屋の中心に置かれていたのはロイヤルファミリーメンバーではないマーガレット・サッチャーでした。

近年開発されたウォーターフロント地区には、もう一つ別の植物園があります。従来の植物園のような部分が大部分を占めているのですが、その中央には、なんと人工的なスーパーツリーなる木の林があります。放射状に開いた木の幹には、様々な植木鉢が植え込まれているのです。なんとも異次元的な感覚のところでした。

ところで、今回の大会の運営については、多くの課題がみられたように思います。

まず、発表の内容についてですが、2014年10月にオーストラリアのブリスベンで開催された第13回アジア・オセアニア性科学学会（AOFS 国際会議）の際には、トランスジェンダーのトピックが多いと感じました。今回は、それに比べるとやや領域は広がったようにも思いますが、もう少し、幅広く領域を広げてもいいのではないのでしょうか。

口頭発表のテーマと発表内容に必ずしも統一感が

あるわけではなく、同じ青年期の問題とはいえ、産婦人科医の発表と社会心理学的発表が同じセッションでは、両方が相互の理解を考えると可哀そうに思えました。例えば、性的な被害は、今や、国際的に課題になっていると考えられますが、そうした内容についての発表領域はありませんでした。私は、研究内容よりは、性的被害の実態の国際比較的なところに関心を持っていたのですが、残念ながらその機会は得られませんでした。

特別講演の中にも、これだと思われる内容もあり、国際学会では、各国への配慮も働くと考えられるので、如何ともしがたいところはあると思いますが、内容についてはもう少し吟味がほしいところです。

また、ポスター発表については、私自身は初めての経験でしたが、デジタル表示の画面のみでした。それも各自が意図をもって調べないと、そのポスターにも接することができないのです。

私自身、発表内容について、他国の状況や意見などを聞きたかったのに、ディスカッションの機会を失い残念でもあります。これからポスターは、デジタル方式になるのかもしれませんが、展示の方法はもう少し配慮してほしいと思いました。せめて、一定のグループごとでもいいので、同じ部屋で一堂に会して、お互いのポスターを見るというようなことは不可欠のように思います。

誤解のないように申し添えますが、もちろんポスター発表でも、ディスカッション付きのセッションもありました。それを選ぶこともできたのですが、私の語学力ではとちょっと躊躇して、まさかこのようなポスターとは思いませんでしたので、それを選ばない選択をしてしまいました。

今後、学会もデジタル化は避けられないとは思われますが、どのような方式が望ましいのか検討課題なのではないのでしょうか。

性教育の歴史を尋ねる

戦後・純潔教育編

茂木輝順

第32回

『明るい生活—中学校高等学校における性教育の手引—』その3
(文部省初等中等教育局中等教育課1953年4月)

もてぎ てるのり
女子栄養大学大学院栄養学
研究科保健学専攻博士後期
課程修了、博士(保健学)

前回までに述べたとおり、『明るい生活—中学校高等学校における性教育の手引—』(以下、本書)は未発表となりました。ただし、現在では、国立教育政策研究所の教育図書館で閲覧できます。今回は、本書を閲覧して、特徴的だと思った点を紹介したいと思います。

誰がどの部分を執筆したのかは明示されていませんが、本書の執筆および編集に携わったメンバーは右表のとおりです。純潔教育分科審議会の太塚二郎や山室民子が本書にも関わっていたことがわかります。

また、前回述べたように、本書は男女共学制をより適切に実施するために作成されましたが、そのことは、以下のような文言で始まる本書の冒頭の「序」からも、推察できます。「本書は、漸く男女の差異および特質を顕著に示して来る青年期の生徒の教育に当たる中学校・高等学校の教師が、いかなる観点に立ち、いかなる目標のもとに、実際に男女生徒の共同生活の指導を行ったらいかにについて、一つの基礎的な参考資料を提供する意図をもって用意されたものである。」(p.1)

共学制については、「共学の経験のない教師が共学の指導をする」(p.77)という現状や、「共学が社会の必要から漸進的になされたものでなく、突如として準備もなく実施されるに至った」(p.130)ことが、難点の理由としてあげられている一方で、「実施されて以来すでに四年余りになり、一応教師も経験をかさねて、落ち着いて来た」(p.104)との指摘もあり、執筆者によって多少の温度差が感じられます。

そして、共学という観点から性教育を広い視座で捉えようとしているのが本書の大きな特徴と言えるでしょう。「共学は広い分野の性教育といつても過言ではない」(p.68)という表現のように、男女共学制それ自体が、広い意味での性教育であるとの認識が示されています。冒頭の「序」でも、「男女の特性を發揮しながら、相互の理解に基づき、各自の健全な人格を形成するとともに、協同して明るい社会生活の建設に努めることに対する指導を、最も広義に『性教育』というならば、本書は、中学校・高等学校における性教育の

表 本書の執筆・編集者(本書 p.2 による)

| | |
|-------|---------------------|
| 伊藤 静 | 東京都大泉高等学校教諭 |
| 大島正雄 | 母性科学研究所(京都市上京区)医学博士 |
| 大塚二郎 | 東京都世田谷区立砧中学校長 |
| 木村萬平 | 京都市立深草中学校教諭 |
| 三野 亮 | 東京家庭裁判所少年調査官 |
| 高柳勝二 | 警視庁防犯部少年課長 |
| 中島ぶん | 東京家庭裁判所調停委員 |
| 中村 精 | 慶応義塾三田評論編集長 |
| 野村正二 | 東京都墨田区立吾嬬第一中学校長 |
| 福岡 高 | 東京都立八潮高等学校長 |
| 堀 秀彦 | 東洋大学教授 |
| 間宮 武 | 横浜国立大学助教授 |
| 宮本三枝子 | |
| 森田宗一 | 東京家庭裁判所少年審判官 |
| 大和マサノ | 東京都立白鷗高等学校教諭 |
| 山室民子 | 救世軍本営 |
| 大田周夫 | 文部省初等中等教育局中等教育課長 |
| 大照 完 | 同 中等教育課事務官 |
| 井坂行男 | 同 同 |
| 荷見秋次郎 | 同 保健課事務官 |
| 松平 潔 | 茨城大学厚生課長(前文部事務官) |

※注：宮本三枝子の所属は記載されていない。

参考書ともいわれるであろう」(p.1)と述べられています。

ただ、学校における性教育をどう進めるかという点については、執筆者によって、若干見解が異なる部分も目に付きます。例えば、中等教育の教科での指導において、所謂性教育の「中核をなす学習活動は健康教育の『成熟期への到達』である」(p.105)と、「中学校保健計画実施要領(試案)(1949年)で示された「成熟期への到達」を中心領域と捉える執筆者がいる一方で、高校での指導について、「恐らく誰でも認めるように、性の科学的基礎知識を生徒に提供するものは、生物科を第一としなければなるまい」(p.133)と生物科を筆頭と考える執筆者もいます。後者の執筆者は、体育の教師が「体育技術の修練、体力向上の方法に重点をおきすぎたきらい」があるために、「現在の体育科の男女教師のすべてが、この問題を正しく扱うための適任者といえるであろうか」(p.134)と、保健体育科が性教育の中核を担うことに疑義を呈しています。

産んで一人前なら、つくって一人前？

前号の早乙女先生の「子ども産んで一人前？」を読みながら、「男は子どもをつくって一人前なのだろうか？」と思いました。わが家には子どもはおらず、外にもつくったことがないので国家に貢献していない非国民ですね。もっとも、今は独身の男性も少なくなく、何が「普通」、「一人前」なのかわかりません。

性の問題では「普通」という基準を設けることが難しいと考えています。もっとも私もこのように性の連載をさせていただきながら、視野がすごく狭かったことを反省させられています。包茎やマスターベーションについて書かせていただいています。常に「健常者」を対象とした記述でした。そこで、今回は「性のノーマライゼーション」について考えてみました。

* *

障がいを作るハードル

自分自身の外来に定期的に通院している障がいをかかえた方は数多くいらっしゃいます。知的障がいや自閉症、精神障がいなど様々で、悩みもいろいろです。

1. いつもおちんちんをいじっている。むいて清潔にできないためのようなのでむいて欲しい。
2. 思春期を迎え、女の子に興味があるようだが、マスターベーションをしていない。マスターベーションの仕方を教えて欲しい。
3. 女の子を妊娠させてしまった。付き合うことは認めてやりたいが、二人とも知的障がいがあり、出産育児はむづかしい。

どのご相談も、ご本人やご家族にとって深刻な悩みですが、大きくなってからだと、必ずしも期待通りの結果にたどり着けません。さらに身体障がい以外の障がいはある程度大きくなってからわかることが多く、羞恥心や痛みを我慢できないため、受診が継続されないことも少なくありません。そのため、将来的に障がいがあることが確認される当事者の方だけではなく、保護者を含めた関係者をご苦労されないように、生ま

れた時から対処できることがあれば、その視点での普及啓発が必要だと反省させられました。

* *

生まれた時からのおちんちん体操を

おちんちんをむいた方がいいかどうか。どうしてむく必要があるのか。むくならいつからがいいのか。このように聞かれると、むかなくても多くの人は大丈夫でしょう。むいた方が清潔を保てます。どうせむくならやりやすい新生児期から、と話していましたが、これが反省のものでした。将来的に障がいが明らかになるかもしれないお子さんのことは全く配慮していなかったからです。そこで、包茎とマスターベーションへの対処に関する考え方を修正しました。

1. 将来、障がいをかかえていることが判明してからおちんちんをむくというのは本人にとっても大変困難なことになるので、生まれた時か、少なくとも保護者がむきむき体操に関する情報を得た段階で始めましょう。
2. マスターベーションを覚える年になって初めてむくと、亀頭部が刺激になれていないため、マスターベーションどころではなくなります。乳幼児期にむいてゴシゴシ洗えるようにしておくことで、思春期になってからマスターベーションをスムーズに教えられます。

* *

ノーマライゼーションという言葉がいない社会

岩手県陸前高田市の戸羽太市長が推し進める「ノーマライゼーションという言葉がいないまちづくり」に関わっています。障がいがあるとかないとか、高齢であるからとか、女性だからとかに関係なく、あたり前に誰もが暮らせるまちづくりを目指しています。

しかし、おちんちんをむくかむかないかという話題を一つみても、陸前高田市でノーマライゼーションという言葉がいないまちづくりに取り組んでいるつもりの私が、おひざ元の「男子の性」でそのことに取り

組めていなかったと反省しきりです。

* *

性欲と障がい

身体障がいの場合、2次性徴と共に性的欲求が高まることは誰もがイメージできますが、知的障がいの場合はその程度によって必ずしも同じように性的欲求が芽生えるとは限りません。そのため、一人ひとりの発達状況に応じた対応をしなければなりません。

よく、「何歳になったらマスターベーションを教えればいいのでしょうか」と聞かれますが、夢精があるか否かで精液造成機能や射精機能が発達しているのか、性的関心が高まってきたのか否かを見極め、発達状況に合わせて考えます。そこを把握するためにも、夢精や射精経験の有無、読んでいる雑誌や、よく見るインターネットのサイトなどをチェックします。ただ、チェックの際に、実際にエッチなサイトを見ていた時にどう反応するかを最初に決めておかないとせっかくの機会を活用できなくなります。何より基本となるのが、「こういうことに関心を持つようになったんだ」と、発達を受け入れる姿勢を持つことです。

* *

むづかしい社会のルールの伝え方

性の問題には避けて通れないのが性犯罪予防です。社会のルールに違反する行為は犯罪となりますが、知的障がいをかかえている人にこのルールを教える環境の整備が不十分です。ノーマライゼーションという言葉がいらぬまちづくりを掲げるのであれば、知的障がいをかかえている人が加害者にならない、もちろん被害者にならない環境を整備することが求められます。

男性読者の方はどうして痴漢やレイプといった罪を犯さないのでしょうか。「だって、罪を犯せば法律で罰せられるから」と多くの方は答えるでしょうが、どこでそのことを学び、心底理解でき、かつ実践できるようになったのかを考えると、実はそこには多くの方との関わりがあったからだ気づくはずです。

人は他者との関係性の中で、「これって変だよ」とか、「おかしいんじゃない」、「そんなことをしていると犯罪者になる」といった学びを重ねていきます。しかし、健常者でも「性」に関する話題を共有する仲間が減り、性犯罪は相変わらずおこっていますが、障が

いをかかえている方にとって「性」に関する学びが得られる場はもっと少ない状況です。

* *

アダルトビデオは5人以上で見ろ

中高生に性教育をする際に、「アダルトビデオやエッチサイトは5人以上で見ろ」と言っています。「アダルトビデオの性描写はでたらめだ」というだけの人もいるでしょうが、それだけでは、アダルトビデオにはまっている人たちの心には響きません。自分の仲間が、自分とは違う受け止め方をしているというメッセージの方が考えるきっかけになります。

知的障がいを抱えた人がアダルトビデオやエッチなインターネットサイトを見続けているとどうなるでしょうか。一番心配なのが児童ポルノです。これを見続けていると、その犯罪性に気付かないまま、自分の行動につなげてしまうことがあります。「見るな」と言うだけだと隠れてみてしまう危険性があります。だからこそ、保護者だけではなく、いろんな人がその情報を共有し、「これって変だ」ということを繰り返し、感情を込めて伝え続ける必要があります。

* *

セックスができる環境整備とは

知的障がいをかかえた人が、セックスをするということについてどう思いますか。やはり避妊が問題になります。コンドームによる避妊が確実にできる場合はいいのですが、実際にコンドームの正しいつけ方ができているのかを確認することもむづかしいですし、使えない場合は別の避妊法を考える必要があります。

確実な避妊法に男性の精管結紮術（パイプカット）と女性の卵管結紮術があります。私は男性のパイプカットの方が手術も簡単なのでお勧めしています。しかし、障がいのことを理解して手術をしてくださる泌尿器科医が近くにいるか否かが問題になります。手術は局所麻酔で行いますので、医者に慣れ、痛い時には動かずに「痛い」と言え、麻酔薬を追加してもらえ関係性を事前に構築しておく必要があります。

今回紹介したのは障がいを抱えている方の性の問題への対処法の一例ですが、これからは性の問題も、ノーマライゼーションという言葉がいらぬまちづくりという視点で考え続けたいと思いました。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

お母さん二人いてもいい！

一読して号泣。激しく心揺さぶられたけれど、本書をこのページで取り上げるかは正直迷った。何を書いても言葉足らずになってしまいそうで……。でも、あとがきの次の言葉を読んでしまったから、力不足で本書の素晴らしさを伝えきれないのではという不安を振り払い、勇気をもって紹介します！「皆さんが「お母さん二人いてもいいに決まってるじゃないか！」という当然の感覚を持ち続けてくれることを信頼します。肯定的な言葉は心にしまわずに、一言でも多く世の中に流しておいてもらえたら嬉しいです」。

さて本書は、女性同士で結婚したカップルの子育て生活を描いたコミックエッセイだ。著者の中村キヨさんは、妻サツキさんが産んだ3人の息子を“婦妻”で育てている。長男トナくんはもうすぐ中学生。子どもたちには「おばちゃん」と呼ばれているが、これはサツキさんと結婚する以前からの呼称。「照れくささとか納得とか／全部クリアにした上で／気が向いたら「お母さん」って／呼べばいいし／呼ばなくてもいい」。

渋谷区や世田谷区でパートナーシップ条例が可決されたことが話題の昨今だが、法の有無に関わらず、法の外側で結婚する人は同性愛か異性愛かを問わず昔からいる。著者たちカップルもその一人だし、私も事実婚で暮らしている者の一人だ。ただ私の場合は男女での事実婚なので、法的な婚姻ではないことで苦労したことはほとんどなく、周囲からも比較的簡単に夫婦として認識してもらいやすい。

中村さんにはサツキさんと結婚する以前、きしえさんという前妻がいた。きしえさんは若くして病気で亡くなってしまうのだが、伴侶を亡くした中村さんに対し、周りの人たちは「でも彼女でしょ」「ちゃんと入籍した奥さんを亡くした男性より辛くない」などと発



お母さん二人いてもいいかな!? —レズビアンママ生活

中村キヨ (中村珍) 著
KKベストセラーズ
定価 1030 円+税

言したのだという。この下りを読んだときは、怒りでブルブル震えた。男女の事実婚でも「夫じゃなくて彼氏でしょ」的な無神経な発言をする人がいないわけではないが稀だ。ところが中村さんは、よりによって伴侶を亡くしたときに「何度も何度も」「いろんな人に」こんな言葉を投げかけられたのだ。同性婚の困難を垣間見た思いがした。

とはいえ、あとがきに著者自ら記しているように、この本で描かれるエピソードの多くは、レズビアンだから、同性婚だから起きる出来事ではなく、「誰の身近でも珍しくない出来事」ばかりだ。大好きな子どもにせがまれて、子の願いを叶えてあげたくて、虫が大嫌いなのにカブトムシを求めて山に分け入る中村さん。2人目、3人目の出産後、産後鬱に陥ってしまった妻を懸命に支える中村さん。息子にセックスを目撃されてしまう婦妻……。

本書では何度も「愛って、なんですか？」という質問が繰り返される。愛ってなんなのか私も明確に説明できないけれど、この本に描かれている家族の姿、家族になろうと決めた大切な他者に対して中村さんもサツキさんも丁寧に誠実に向き合っている姿は、これが愛じゃなくてなんなの？ と思う。

長男トナくんはめっちゃくちゃかわいくていい子だし、前妻きしえさん、きしえさんの親友の香奈子さん、妻公認の中村さんの彼女 (!) ますみさんなど家族以外の登場人物も、それぞれに悩みを抱えながらも全員が魅力的で、この人たちの物語をもっともっと読みたくなってしまふ。そして、なんと読める。インターネットサイト「note」に中村珍 (中村キヨさんの別名義) さんが開設している『月刊コミック無職』では、「ママ母手帳 —「お母さん二人いてもいいかな!?」の、これまで。」「レズと七人の彼女たち」などが有料連載中。本書読了後、私もさっそく課金してむさぼり読んでます。 (日本性科学連合事務局長 今福貴子)

▶▶ 11月28日(土曜日) ~ 12月1日(火曜日) ◀◀

第29回日本エイズ学会学術集会・総会

予防、予防、予防 そして予防

市民公開講座 (11月29日 12:45 ~ 14:15)

地域においてHIV陽性者と薬物使用者を支援する研究
研究成果発表会

会場 国立国際医療研究センター (新宿戸山1-21-1)

一般公開プログラム (12月1日 18:40 ~ 19:30)

第5回世界エイズディ・メモリアル・サービス
~生命(いのち)をつなぐ~

会場 東京ドームホテル (文京区後楽1-3-61)

※そのほか11月28日・29日の国立国際医療研究センターでは、参加自由のイベントが開催される。詳しくは下記まで。

主催・問い合わせ等 主催：日本エイズ学会 問い合わせ先・開催概要：URL <http://aids29.umin.jp/>

運営事務局：株式会社サンプラネット (東京都文京区大塚3-5-10) TEL 03-5940-2614 E-mail aids29@sunpla-mcv.com

性教育ハンドブック Vol.6

『「ありのままのわたしを生きる」ために』

土肥いつき著

◆ A5判：82頁、頒価500円



主な内容 港にて(自分史の試み…) / 船出のとき(小さなトゲのような思い…) / 帆をあげる(教員生活のはじまり…) / 舵を切る(「身体改造の」開始…) / 嵐の中で / かすかに見えた航路 / 新たな旅へ

著者プロフィール 1985年より京都府立高校教員。セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表、トランスジェンダー生徒交流会世話人、まんまるの会(関西医科大学附属病院ジェンダークリニック受診者の会)世話人代表など。映画『coming out story』に出演。

既刊〈性教育ハンドブック〉

☆性教育ハンドブック Vol.5 『21世紀の課題=今こそ、エイズを考える』池上千寿子著 A5判・68頁500円

☆性教育ハンドブック Vol.4 『性教育の歴史を尋ねる～戦前編～』茂木輝順著 A5判・92頁500円

※送料：1～4冊180円、5冊～8冊360円、9冊510円、10～14冊870円、15冊～19冊1180円、20冊以上無料。

◆ JASE ホームページ <http://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。
または、Email info_jase@faje.or.jp TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です (TEL 03-6801-9307)。貸出業務は行っていません。

【開室日・時間】月～金曜日 10:30～17:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※この他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー(自然科学系、人文・社会学系)、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際(海外団体資料・海外学術誌)、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>